

胃癌 15

対象疾患:胃癌

【0315】Ram+PTX 療法

【投与スケジュール】 1コース=28日(4週)

1コース

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W	4W	5W
ラムシルマブ	サイラムザ	Ram、Rmab	8mg/kg	↓ Day1		↓ Day15		↓ Day1
パクリタキセル	パクリタキセル	PTX,PAC,TXL	80mg/m ²	↓ Day1	↓ Day8	↓ Day15		↓ Day1

【注射薬投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day1、15			
内服	レスタミン錠 10mg	5錠	①開始時に内服
①	デカドロン 3.3mg/1mL	3管	30分
	ファモチジン静注 20mg	1管	
	グラニセトロンバッグ 3mg/100mL	1本	
②	サイラムザ	8mg/kg	60分
	生理食塩液 250mL	1本	
③	生理食塩液 100mL	1本	60分※(経過観察)
④	パクリタキセル	80mg/m ²	60分
	生理食塩液 250mL	1本	
⑤	生理食塩液 50mL	1本	ルートリンス
Day8			
内服	レスタミン錠 10mg	5錠	①開始時に内服
①	デカドロン 3.3mg/1mL	3管	15分
	ファモチジン静注 20mg	1管	
	生理食塩液 50mL	1本	
②	グラニセトロンバッグ 3mg/100mL	1本	30分
③	パクリタキセル	80mg/m ²	60分
	生理食塩液 250mL	1本	
④	生理食塩液 50mL	1本	ルートリンス

※サイラムザ投与後の生理食塩液は、3コース目以降は投与時間短縮可

※デカドロンは過敏症状がなければ半量ずつ(最低 1mg まで)減量可

＜サイラムザ＞

蛋白質透過型のフィルター(0.2 又は 0.22 ミクロン)を使用し、他の薬剤と同じラインを使用しないこと

※ニプロ製輸液セットのフィルターはポリエーテルスルホン製のため使用可能

＜パクリタキセル＞

インラインフィルター(0.22 ミクロン以下)を使用すること

DEHP フリー(もしくは PVC フリー)の点滴セットを使用すること

輸液ポンプを使用する場合は、濾過網の組み込まれた輸液セットは使用しないこと

催吐性	軽度リスク(10~30%)
組織傷害性	パクリタキセル:壊死性抗がん剤 サイラムザ:不明
代表的副作用	パクリタキセル >10%…骨髄抑制、末梢神経障害、関節痛、筋肉痛、悪心、嘔吐、脱毛、皮疹。爪の変化 <1%…アナフィラキシー、間質性肺炎
	サイラムザ 高血圧、蛋白尿、肝障害/肝不全、血小板減少症、静脈血栓塞栓症、動脈血栓塞栓症、Infusion Reaction、消化管穿孔、出血、好中球減少症/白血球減少症、うっ血性心不全、創傷治癒障害、瘻孔、可逆性後白質脳症症候群

【注意事項】

(サイラムザ)

- 患者選択においては、初回投与前チェックリストで投与の可否を判断すること
- 調製後は速やかに投与を開始すること、やむを得ず保存を必要とする場合、室温保存(30℃以下)では調製後 12 時間以内に投与を開始すること

(パクリタキセル)

☆パクリタキセルのアルコール量

(例)パクリタキセル 100mg 投与の場合

⇒ビール換算で約 168mL (350mL 缶の半分くらい)

- 過飽和状態にあるためパクリタキセルが結晶として析出する可能性があるため、0.22 ミクロン以下のメンブレンフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
- 点滴用セット等で可塑剤として DEHP を含有しているものの使用を避けること。もしくは PVC フリーの輸液セットを使用すること
- 輸液ポンプを使用して投与する場合は、チューブ内にろ過網(面積の小さなフィルター)が組み込まれた輸液セットは使用しないこと(まれにポンプの物理的的刺激により析出するパクリタキセルの結晶がろ過網を詰まらせ、ポンプの停止が起こることがあるため)
- 本剤は非水性注射液であり、輸液で希釈された薬液は表面張力が低下し、1滴の大きさが生理食塩液などに比べ小さくなるため、輸液セットあるいは輸液ポンプを用いる場合は以下の点に十分注意すること。
 - 自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するので、滴数を増加させて設定する等の調整が必要である。
 - 滴下制御型輸液ポンプを用いる場合は、流量を増加させて設定する等の調整が必要である。
- 前投薬:本剤投与による重篤な過敏症状の発現を防止するため、必ず前投薬(H1 阻害薬、H2 阻害薬、デキサメタゾン)を行うこと

□ 先発品名は「タキソール注射液」です。2017年2月に後発品に採用切り替え

レジメン登録承認	2015年12月1日 化学療法委員会
参考資料	Wilke H, Muro K, et al. Ramucirumab plus paclitaxel versus placebo plus paclitaxel in patients with previously treated advanced gastric or gastro-oesophageal junction adenocarcinoma (RAINBOW): a double-blind, randomised phase 3 trial. Lancet Oncol 15: 1224-1235, 2014 サイラムザ点滴静注用適正使用ガイド